

自分の考えや思いを英語で伝え合うことに喜びを感じる児童生徒の育成をめざして

越ヶ浜中の
英語の取組

小中連携英語教育指導の共通基盤は・・・

スポーツでも音楽でも、上達するためには制限をかけて練習します。例えばピアノであれば、よく間違える箇所の特化してそこだけを何度も練習したり、野球ではアウトカウントとランナーのさまざまな状況を想定した守備練習をしたりすることなどがそれにあたります。しかし、実際にはその前のフェーズがあります。野球であれば、試合の際に出たミスの反省としてその練習を行うでしょうし、楽器の練習では、1曲の練習をある程度通してからミスタッチの多い箇所を繰り返し練習することが多いはずで

す。これは言語習得でも同じだと感じています。まずは言語材料に制限をかけずに場面や状況だけを与え、やらせてみる。すると、そこで自分に必要なもの（欠けているもの）に気づく。至極単純な話ですが、主体的な学習者を育てるためには、この最初の部分が大切なのではないかと感じます。「今日学ぶ文法はこれだからね。」「だからこの文法を使って、この場面の会話をしましょう。」という従来よく見てきた指導は、決して順序としては間違っていないとは思いますが、その前の段階が抜けているため、学習者はただ与えられたものをこなしているだけに過ぎなくなります。ゆえに、そこから得られる失敗や気づきも少ないでしょう。生徒の側からすると、最初から制限をかけられたり答えを示されたりしては、意欲も削がれるものなのかもしれません。もしも生徒が考えようとせずに最初から答えを欲しがらうようなら、それまでの指導の蓄積に問題があったと考えるべきなのかもしれません。

小中連携英語教育指定校となった今年度、小学校のスマールトークや中学校の言語活動に共通する基盤は、この考え方に基づくものとなっています。「主体的な学習者を育てる」という共通の指導観と実践があることが、細かな表面上の制限を設けることよりも大切なのではないのでしょうか。

異学年英会話 モジュール英会話（1・2年生）

「What did you do on New Year's Eve?(New Year's Day?)」というテーマでのスマールトーク。上述したように、まずは自分たちで会話を始めます。会話を終えた後、「どんなことが言いたかった?」「言えなかった表現は?」と確認して共有します。モジュール学習は10分間と短いので、次に教師のiPadで事前に準備していたスライドを生徒のiPadに送信します。スライド上でテーマに関する表現の補充を行い、再度ペアを替えて会話を繰り返しました。次は生徒の表現も増えます。そして、自分が伝えたい内容であれば、習ってなくても生徒たちは使おうとします。回数を繰り返すうちに、上達が見られるようになってくると、それを見取って最後にフィードバックします。短い10分間なので、基本的にここではミスの指摘は行わず、気持ちよく終わることを心がけます。



1・2年生合同のモジュール英会話。1年生は過去形を学習しているので、2年生が絶好の会話相手ですね。iPadを用いての共有も、こうした時短の場面で効率的です。

2年生 「作成したプレゼンを用いて、自分のリサーチ結果をALTに伝えよう」

昨年末から準備している英語のプレゼン。PC操作を身につける時間を有したものの、生徒たちは見栄えのある素晴らしいプレゼンを完成させていました。この日はALTの日。来週に控えたパフォーマンステストのための練習を、個別に行う時間をとりました。冬休みがあり、少し間が空いたこともあり、若干英語を思い出すのに時間がかかっていましたが、ALTの先生に伝えた後は、よりよいプレゼンにするためにアドバイスを受けていました。いよいよ来週は本番！これまで最高のパフォーマンスを期待しています！



Power PointとExcelを駆使して、ようやくプレゼンが完成。



この日は個別に準備(覚悟!?)ができた生徒からALT相手にプレゼンし、アドバイスをもらいました

